Interview
SYUJI MAKINO

同窓会50年を語る

インタビュアー
フリーアナウンサー
(Office Lapri)
後藤珠希
(2006年卒)

牧野修二

愛媛大学法文学部名誉教授

●プロフィール●

昭和28年３月	愛媛大学文理学部人文学科(甲)史学専攻卒業
昭和31年10月	九州大学大学院文学研究科修士課程修了
昭和33年５月	愛媛大学講師(文理学部東洋史学担当)
昭和36年10月	愛媛大学助教授(文理学部東洋史学担当)
昭和43年３月	愛媛大学助教授(法文学部・配置換え)
昭和47年４月	文学博士（九州大学）
昭和52年10月	愛媛大学教授（法文学部）
平成７年９月	愛媛大学退官
平成７年10月	愛媛大学名誉教授

後藤： 本日はよろしくお願いします。まず、現在の法文学部の前身である文理学部の同窓会を設立された当時のことやきっかけなどをお話しいただきたいと思います。

牧野： 大雑把に言うと、私が愛大に帰ってきたときに、当時四国電力に勤めていた同級生の井出康夫（後の２代目同窓会長）が「作ろう」と言ったんです。私は修士を出て半年かそこらで講義をしているわけですから、最初それどころじゃなかったんですよ。で、１年ぐらいたってから、そういうことを言い出して。まあ、結論から言うと「作ろう」とは言うけど、要するに「お前が作れ」というわけですよ（笑）はじめは「いや、こらえてくれ」と言ってたんですけど、やらないわけにもいかんかなと。

後藤： ほかの学部は同窓会を持っていたのですよね。

牧野： 新居浜高等工業学校の時代から続いて工学部になったり、農学部も松山農業学校から、また教育学部が愛媛師範学校から続いてて長いんですけど、松山高等学校はね、文理学部につなぎにくかったんです。で、別に作らなきゃいかんと。

後藤： それで、先生が事務局を引き受けられたのですね。初代会長の星野さんはその頃何を？

牧野： 星野はね、私より一足先に松山に帰ってきて、商大（現松山大学）で教えてた。星野と井出と私は松高時代の同級生だったんですよ。それで新制大学になったとき、３人とも愛媛大学の文理学部に入って、星野とはそこでも史学専攻で一緒だった。井出は経済専攻になったけど、もとは同級生ですから話が通じやすかったですね。「会長は星野にやってもらおう」ということになり、星野も引き受けてくれて、まずは、主に松山在住の卒業生に案内状を送って、やっと始まったんです。

後藤： 翌年には、第１回の会報誌を発行されてますよね。

牧野： 総会をしたら、報告と宣伝を兼ねてすぐに発行しないといけないという認識がありましたからね、急いで発行しました。

後藤： 当時は新聞形式だったようですが、編集は全部牧野先生がお一人でされていたんですか？ ご苦労されたのでは？

牧野： ええ、一人で。時間がすごくかかったのが苦労というか・・・そんなに、しんどいわけではなかったですけどね。

後藤： 会員名簿も翌年には発行されてますから、会報誌・名簿と最初からきちんと活動をされていたんですね。

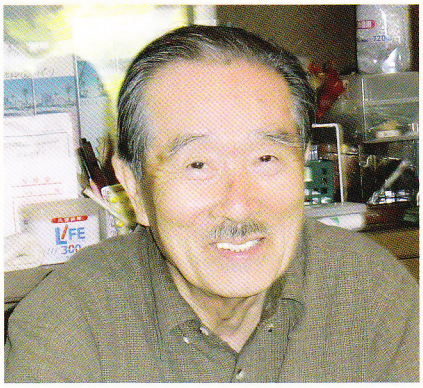
牧野： 名簿は、最初は人数もそんなに多くないですから難しいことではなかった。調査に手間はいりましたけど。だいたい、５年おきぐらいに発行してました。言い忘れてましたけど、文理の「文」に私のほかに卒業生が１人と「理」に２人、教官として戻ってきていたから、相談するのには困らなかった。組織としてちゃんとしていないかもしれないけど、とにかく前へ進むように４人でやっていた。「理」の卒業生は越智さんと堀口さんと言って、別に相談して決めたわけではないけど、雑務は越智さんと私で引き受けていた。ほかの人には負担をかけないようにしていた。教官は勉強しないといけないですから。

後藤： でも、先生も研究にお忙しかったでしょう。

牧野： みんなそうです。でも、若い人にはなるべく迷惑をかけないというふうに自然に。文理が法文学部に変わって、西田さんに引き継いでもらうまでは、西田さんにはタッチしてもらわなかった。迷惑になるから。西田さんは好意的に助けてくれたんだけどね。当時、私が自分の教え子を専任講師として引っ張ってきてたんだけど、若いから労働力をあてにされる。しかし、西田さんに全部引き継いだときに若い人を使わないようにしてくれと強く言った。そして彼に任せた以上は、彼のやってくれることに私は一切口を出さなかった。

後藤： 20年分の引き継ぎは、どのようにされたんですか？

牧野： 事務的にね。別に難しいことじゃない。ざっとした記録と、会報誌やお金を引き渡しただけなんです。



後藤： 会計は大変だったんじゃないですか。会費を入学時に集めるようになったのは後のことですよね。最初はお金がなかったんじゃないですか。

牧野： ないんですよ。本当になくて、困りましたよ（笑）最初に発会式をやりますと出した案内状に、終身会費とするから500円送ってくれ、と書いて送りました。当時の500円は大金ですよ。昭和30年ぐらいです。当時、「俺の給料は13800円」とかいう言葉を織り込んだ流行歌があったんですから（笑）それで50人ぐらいだったかな、協力してくれたおかげで発足できた。

後藤： 同窓会の活動を通して、何か印象に残っていることはありますか。ご苦労されたのは、お金のことと時間をとられたことだと思いますが。

牧野： お金のことは、最初は苦労したけど、あとは困らなかった。しばらく使わないようにしていたから。会報誌の印刷代と郵送費だけ。名簿は独立採算制で、会費からは出さないと決めていた。

後藤： その頃はみんな名簿を買ってくれていたんですか。今は、なかなか買ってくれないので困っているんです。

牧野： いや、買う率は今とあんまり変わらないんじゃないかな。だから見当が難しいよね。そういう苦労はね、私はしてなくて、名簿の発行の経費の計算とか見通しとか、越智さんがやってくれました。

後藤： 大学や学部との関係では、何かされていましたか。今は就職支援などを同窓会が一緒にやっているんですが。学部と同窓会の関係は、ずっと別の組織として活動を？

牧野： そう、私のときはそうでしたね。お世話にならないといけないとこもあったけど、なるべく迷惑をかけないようにね。私が事務局長をやっていたのは大学側も承知していました。会費は入学時に集めるというのがまもなく始まったんです。そのときは大学のお世話になりました。

後藤： 1982年から始まったんですよね。入学時に授業料と一緒に集めるのは。

牧野： それは法文学部としてでしょ。文理のときも、入学時に集めるようにしていました。それがいつ始まったのか、ちょっと記憶にないんですけど・・・。会費が10,000円になったのも、いつだったかな。この辺から記憶が危ない（笑）法文学部と理学部に分かれましたね、文理の「文」「法」「経」が法文学部に「理」が理学部に。そのあと同窓会も分かれることになって。

後藤： 79年の８月に分かれることを決めていますね。先生が事務局長を西田先生に交代される１年ぐらい前ですね。

牧野： ああ、そうですね。そのぐらいです。私も「理」の越智さんと相談して、分けましょうということになって、すると財産分けも必要です。そこは公平に分けました。越智さんと私が話し合っただけですけどね。あまりお金を使わないようにしていたからまあまあ貯まっていて、２つに分かれてもしばらくの間は活動ができなくなるとか赤字に苦しむとか、そういうことは一切なかった。ただし、倹約してね。会報誌は郵便料を倹約して、自分で配達していた（笑）

後藤： えぇ!?　先生が配達なさったんですか！

牧野： 市外はさすがに無理だから、市内のね。いや、たいしたことはないです。県庁や市役所や学校、伊予銀行、愛媛銀行などの職場にちょっと持っていって。時には個人宅にも持っていったことがあるね。それは引継ぎをする最後までやりました。

後藤： はぁ～、なるほど。今も、県庁や市役所にはまとまった数の同窓生がいますから、世話役の方に渡すとかできますね。

牧野： それで節約できる郵便料なんてたかがしれているんだけど、重要なのはそれよりも顔つなぎですよ。会報誌を持っていくことで、その職場の幹事役の人とコミュニケーションがとれる。幹事役は幹事役で、職場内を配って歩くときにまた会員とコミュニケーションがとれる。だからわざとね、配達をしていました。そういうことをしていないと、「総会をしますから出てください」と言ったって、出てこないよね。でも、顔つなぎしておくと来てくれるから（笑）

後藤： 昔は、今より団結していたんですね？

牧野： いや、団結というわけじゃないですが（笑）でも、所在をつかんで連絡がとれるようにするというのを最優先にしていたんです。ほかの事は、できたらするという感じ。逆に言うと、なるべくしたくない。うるさがられるでしょ、あんまりやると。だから、私のやり方はドライだったと思いますよ。

後藤： それでは、最後に同窓会へ期待することや同窓生へ何かメッセージをお願いします。

牧野： 私は、さっきも言ったように後の人へは何も言わない主義です（笑）学部を退職するときもそうでした。後の人に何も言うべきじゃない。辞めたらもう、大学にも行きません。研究会ぐらいは行ってもいいんですけど、２～３回しか行ってないです。期待することはそれはたくさんありますけど、何も言いませんよ（笑）

後藤： 今秋の50周年記念総会はぜひご出席ください。歴代の会長、事務局長はご招待してるんです。

牧野： そうですか、それはなるべく出席したいと思います。

後藤： はい、お待ちしております。本日は、ありがとうございました。